

---

# 雨のさなかに

西東 千暁

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

雨のさなかに

### 【コード】

N3391W

### 【作者名】

西東 千暁

### 【あらすじ】

凍える雨の中、帰ってきた人へ。

その日は雨が降っていた。

僕はいつも通り、心も身体も砕ける直前で。

容赦なく降り注ぐ雨は

心を刺す針のように

身体を流れる精油のように

頬を伝う涙のように

僕の感情を更なる負へと追い込んでゆく。

傘をさす力も残っていない僕に幾度も注ぐ雨粒は

心と同じ温度まで体温を奪った。

自分と死人との違いは何。

それはおそらく君の存在。

あるいは醜い生への執着。

もしくはちらつく微かな希望。

僕の生きる理由は、君。

静まり返った路地と、がらんどうの僕の頭に響くのは、

僕の名を呼ぶ幼く無邪気な君の声。

僕を現実に還す、唯一の術。

たくさんの人間に踏みつけられて、ひび割れ窪んだコンクリートの  
上の水溜りに、

傘もささず靴底を沈ませながら騒々しく駆け寄る君の姿はとてもしらしくて。

「おかえりなさい」

柔らかな声と共に彼女は僕の懐に収まる。

線の細い体をそっと抱き締めた。

びしょ濡れになった君の鮮やかな栗色の髪を指で梳いて僕は言う。

「ただいま」

いつもより上手く言えなかったのは  
それはきつと五月蠅い雨のせい。

君が強く抱きしめるせい。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3391w/>

---

雨のさなかに

2011年10月9日15時51分発行